

第62回日本医真菌学会総会・学術集会 モーニングセミナー2

爪白癬の治療で 日常診療を 盛り上げよう!

日時

2018年9月9日(日)

8:20~9:20

学会2日目

会場

第3会場 大手町サンケイプラザ
3階 301-302

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2

座長

金沢医科大学 皮膚科学分野
教授 望月 隆 先生

講演1

爪白癬のオフィス・ダーマトロジー

まるやま皮膚科クリニック 院長 丸山 隆児 先生

講演2

爪白癬治療のアルゴリズムを考える

埼玉医科大学総合医療センター 皮膚科 教授 福田 知雄 先生



第62回

日本医真菌学会総会・学術集会

モーニングセミナー2

爪白癬の治療で日常診療を盛り上げよう!

講演1

爪白癬のオフィス・ダーマトロジー

まるやま皮膚科クリニック 院長 **丸山 隆児** 先生

白癬は依然として皮膚科外来疾患の一割弱を占め、日常診療で避けて通ることのできない問題である。なかでも爪白癬は治療に長い期間を要し、なしうる最善の治療を試みても完治させることの困難な症例が少なくない。

爪白癬治療においては、有効性、簡便性、経済性などの観点から、抗真菌剤の内服が従来より行われているが、本邦でもここ数年の間に爪白癬に有効な外用剤が相次いで発売され、臨床応用が可能となった。ただし、爪専用外用剤で治療を行うにあたっては、適用患者の選択、正しい外用方法の指導、治療アドヒアランスの維持など、注意すべき点多々存在する。

本セミナーでは、爪白癬の疫学、病型分類、抗真菌剤の効果、爪専用外用剤の位置づけなど、爪白癬診療の現状を概観したうえで、開業医としての自院における治療経験や爪専用外用剤を用いた診療上の工夫について報告する。

講演2

爪白癬治療のアルゴリズムを考える

埼玉医科大学総合医療センター 皮膚科 教授 **福田 知雄** 先生

爪白癬は日本人の約1割が罹患している身近な真菌感染症で、未だに難治な疾患として捉えられている。内服薬は、1962年に発売開始されたグリセオフルビン、1993年発売のイトラコナゾール、1997年発売のテルビナフィンが、それぞれの時代で治療の中心を担ってきた。最近まで外用薬に保険適応はなかったが、2014年に本邦初の爪白癬用外用抗真菌薬エフィナコナゾールが発売され、次いで2016年ルリコナゾール外用薬が発売された。爪白癬治療に外用の選択肢が増えた意義は大きい。実際、外用療法を選択する患者数は多く、その割合は内服療法を上回る。しかし、患者の希望のみに従って治療法を選択しては治療効果が上がらない。内服、外用の種類によって得意な臨床型は異なる。また、治療法の選択には、合併症、薬剤の相互作用なども影響する。それぞれの薬剤の特性を考慮し、推奨される爪白癬治療アルゴリズムを考えてみる。